

3 住居の所有関係別家計資産

(1) 概況

全世帯の1世帯当たり家計資産額を住居の所有関係別にみると、持ち家世帯は4632万円、借家・借間世帯は914万円で、持ち家世帯が借家・借間世帯の5.1倍となっている。特に、住宅・宅地資産についてみると、持ち家世帯は3419万円、借家・借間世帯は198万円となっており、その差(3222万円)は資産合計の差(3718万円)の86.6%を占めている。

また、住宅・宅地資産以外の資産についてみると、金融資産では持ち家世帯が1033万円、借家・借間世帯が611万円、耐久消費財等資産では持ち家世帯が179万円、借家・借間世帯が105万円となっており、いずれも持ち家世帯の方が借家・借間世帯に比べて多くなっている。

持ち家世帯について、住宅ローンの有無別に家計資産額をみると、住宅ローンのある世帯は2932万円、住宅ローンのない世帯は5697万円となっている。資産の種類別にみると、金融資産では住宅ローンのある世帯で568万円の負債超過、住宅ローンのない世帯で2037万円の貯蓄超過となっている。住宅・宅地資産は住宅ローンのある世帯で3308万円、住宅ローンのない世帯で3489万円と、住宅ローンのない世帯の方が多くなっている。住宅資産と宅地資産に分けると、住宅ローンのある世帯の住宅資産は、住宅ローンのない世帯に比べて住居の建築時期が新しい傾向があることなどにより、住宅ローンのない世帯を上回っているものの、住宅ローンのある世帯の宅地資産は、住宅ローンのない世帯を下回っている。また、耐久消費財等資産は住宅ローンのある世帯で192万円、住宅ローンのない世帯で171万円と、住宅ローンのある世帯の方が多くなっている。(表 - 5, 図 - 7)

(2) 前回との比較

住居の所有関係別の家計資産額を平成11年と比べると、持ち家世帯は住宅・宅地資産が大幅に減少したことから、資産合計でも14.4%の大幅な減少となっている。また、借家・借間世帯の資産合計も8.4%の減少となっている。

持ち家世帯について、住宅ローンの有無別にみると、住宅ローンのある世帯は宅地資産額の減少などにより24.1%の大幅な減少となっている。また、住宅ローンのない世帯も12.5%の大幅な減少となっている。(図 - 7)

表 - 5 住居の所有関係別1世帯当たり家計資産額(全世帯)

(万円)

住居の所有関係	資産合計	金融資産	住宅・宅地資産		耐久消費財等資産			年間収入	世帯主の年齢(歳)	
			宅地	住宅	耐久消費財	ゴルフ会員権等				
平均	3900	950	2786	2180	606	164	150	14	696	53.6
持ち家の 一戸建て その他	4632	1033	3419	2677	742	179	162	17	734	55.9
	4773	1095	3496	2753	742	182	165	17	732	56.3
	3516	543	2816	2075	741	157	135	22	748	52.2
借家・借間 民営借家・借間 うち民営借家 (設備専用) 公営借家 都市再生機構・ 公社等借家 給与住宅	914	611	198	149	49	105	103	2	544	44.4
	833	505	219	167	53	109	106	3	537	42.4
	840	510	221	170	51	109	107	3	539	42.3
	665	483	101	81	20	81	80	1	400	50.1
	993	794	108	78	30	92	90	2	523	50.3
	1473	1039	301	215	86	133	130	3	768	40.8
(再掲) 持ち家で住宅ローン のある世帯 持ち家で住宅ローン のない世帯	2932	-568	3308	2308	1001	192	179	13	833	48.8
	5697	2037	3489	2908	581	171	151	20	671	60.3

図 - 7 住居の所有関係別1世帯当たり家計資産額の前回との比較(全世帯)

